

# 「旭小学校の金山石当節踊传承活動の取組」

## 1 学校名

いちき串木野市立旭小学校

## 2 学年・人数

全学年（全児童数30名）

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

4月～11月の総合的な学習の時間、生活科の時間（本校体育館、教室等）

### (2) 発表の日時・場所

11月14日（土） 生活・表現発表会（本校体育館：発表の様子はZoom配信）

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

### (1) 名称

金山石当節踊（きんざんせつとぶしおどり）

### (2) 由来

島津家が、初めて芹ヶ野金山の発掘を行ったのは1660年だが、それ以前から多くの自稼山が開かれていて、石当節はその頃から歌い出されたのではないかとされている。一日中、暗い鉱山に閉じ込められ、ここで働くことを余儀なくされた坑内での様子を表現している。

### (3) 構成等

石当節の歌に合わせて鉱夫役が下穴や上穴にたがねを当て、せつとでたたく。その間、ハネブイと刃が三角形になったマエカキを持つ役が、鉱石をハネブイに入れ、それを立った状態にいるテゴカリ役が背負っているダッテゴの中に入れる。最後は全員で立ち上がり万歳をする。

※ せつと・・・たがねをたたくもの

ハネブイ・・・小さく砕いた石を入れるちりとりのようなもの

マエカキ・・・石を集めて入れる道具

ダッテゴ・・・背負うカゴのこと

## 5 保存会や地域との連携の具体

保存会と学校で連絡を取り合いながら日程を調整し、指導に当たっていただいている。生活表現発表会のときは、金山石当節保存会の方々のお手伝いをいただき、児童の発表を行った。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

一定の動きが繰り返される踊りであるため、基本となる姿勢の足の開き方や視線の位置など細かい点を大切にしながら取り組んでいる。また、最近では、単に踊りだけを覚えるのではなく、歌詞に込められた意味や由来などについて知り、石当節をうたって当時の状況を思い浮かべながら踊れるように取り組んでいる。

## 7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【練習の様子（屋外で）】



【練習の様子（体育館で）】



【生活・表現発表会での発表①】



【生活・表現発表会での発表②】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

かつては、金山のまちとして多くの鉱夫であふれかえっていた旭地区。閉鎖された串木野金山跡地は、今では金山蔵として、焼酎の製造や温泉施設として利用されている。金山最盛期を知る方々も少なくなり、児童もこの地で昔何が行われていたのかを知る術が減ってきている。そのような中、この石当節踊の伝承は、旭小校区の歴史について身をもって感じるができることとともに、地域の方々の思いや願いを感じ取ったり、高齢者を大切にする心を養ったりすることにもつながる非常に意義のある活動となっている。今後もこの石当節踊の伝承を続け、この地に暮らす子どもたちに多くのことを学んでほしいと思う。

※ 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のために、児童の発表をZoomアプリを利用して、保護者へ配信する形をとった。例年は、保存会の方々にお願いする衣装の着付けも、今年度ははちまきや手ぬぐいを使用するだけの簡易的なもので行った。

生活科や総合的な学習の時間で学んだことや限られた時間の中で練習してきた成果を発表できる場をもてたことは、児童にとっていい経験になったと思う。来年度は、保護者や地域の方々の前で堂々と披露できることを願っている。